

3-1. NIPPON DATA80/90 実行ワーキンググループ報告

NIPPON DATA90 25年死因追跡作業報告

研究分担者 喜多 義邦（敦賀市立看護大学看護学部看護学科 教授）
研究分担者 早川 岳人（立命館大学衣笠総合研究機構地域健康社会学研究センター 教授）
研究協力者 鈴木 春満（滋賀医科大学博士課程教育リーディングプログラム 大学院生）
研究分担者 門田 文（滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授）
研究分担者 奥田奈賀子（人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科 教授）

1. 生存確認対象者の確定作業

25年目追跡対象者総数は5951名（前回調査で不明となっていたものを含む）であったが、このうち2名は調査対象外であることが判明し生存確認対象者から除外（1名は対象年齢外であったこと、1名は支援措置対象者であったことによる）することとなった。よって、今回追跡対象者総数は5949名となった。

2. 今回調査（25年目調査）の成績と死因の突合

生存確認追跡対象者5949の内訳は以下のとおりである。

生存者数：4395名
転居者数：362名
死亡者数：471名
不明回答：8名
職権消除：0名
海外転出：1名
回答拒否：712名

であった。

なお、上記成績とは別にADL調査時に181名の死亡が判明している。よって、追跡25年目における死亡者総数は652名となった。これら死亡者の死因を特定すべく照合作業を行い、全例について死因を突合することができた。

3. NIPPON DATA90の25年目追跡による累積の成績

NIPPON DATA90コホート対象者8381名（当初の8383名から上記調査対象者外2名を除く）の25年目追跡における累積の結果は以下のとおりである。

生存者数：4758名 ただし、生存者は当該市町村在籍者、転居者、海外転出を含む
死亡者数：2683名
不明者数：940名

であり、生存・死亡の確認ができた対象者の累積の割合は88.8%となった。なお、追跡20年目での成績は96.4%であった。

25年目追跡において、前回の調査で回答拒否の対象者へも生存確認を行ったところ、生存が確認できた者20名、死亡が確認できた者2名、計22名について確認することができた。

4. 死因の分類

突合できた死因について、NIPPON DATA90における死因の分類方法（下記を参照）に基づき25年目追跡の死因を追加した。

死亡原因とICD・死因コードの対応および変数名							
死因		ICD9	9-簡単	ICD10	10-簡単	ND80変数名	ND90変数名
Cardiovascular	循環器疾患死亡	393-459	46-61	I00-I99	09000台	cvd24y	cvd15y
Coronary Heart Disease	冠動脈疾患	410-414	51-52	I20-25	09202, 09203	chd24y	chd15y
Heart Failure	心不全	428	55	I50	09207	hf24y	hf15y
Stroke	脳卒中	430-438	58-60	I60-69	09300台	strk24y	strk15y
Cerebral Infarction	脳梗塞	433, 434, 437.8a, 437.8b	59	I63, I69.3	09303	infrc24y	infrc15y
Cerebral Hemorrhage	脳内出血	431-432	58	I61, I69.1	09302	hemr24y	hemr15y
Cancer	悪性新生物死亡	140-208	28-37	C00-D48	02000台	cncr24y	cncr15y
Stomach	胃がん	151	29	C16	02103	stmc24y	stmc15y
Lung	気管、気管支及び肺がん	162	33	C33-34	02110	lngc24y	lngc15y
Liver	肝がん（肝内胆管含む）	155, 199.1c	31	C22	02106	livc24y	livc15y
Pancreas	すい臓がん	157	32	C25	02108	pncc24y	pncc15y
Rectum	直腸S上結腸移行部および直腸のがん	154	30	C19-20	02105	rctc24y	rctc15y
Breast	乳がん	174-175	34	C50	02112	brsc24y	brsc15y
Pneumonia	肺炎	480-486	63	J12-18	10200	pnm24y	pnm15y
*対応は岡村らの論文American Heart Journal 2004; 147:1024-32のTableIIに準拠。							
1 = 当該疾患で死亡したもの、0 = それ以外のもの（生存者、不明者も含む）							

5. 人年について

25年目調査で生存が確認できた対象者（前回調査で不明であったものも含む）については25人年をあてはめ、死亡者については、追跡開始年月日から死亡日までの期間を計算し人年とした。また、不明者についてはこれまでの調査追跡時に不明が確認され引き続き不明となった者については初回不明の調査時の人年をあてはめることとした。20年目調査で生存が確認され、今回調査で不明となった者については20人年をあてはめることとした。

本突合作業ののち、解析用データセットの整合性を確認する目的でモニターによる解析作業を研究班内の研究者に依頼する。